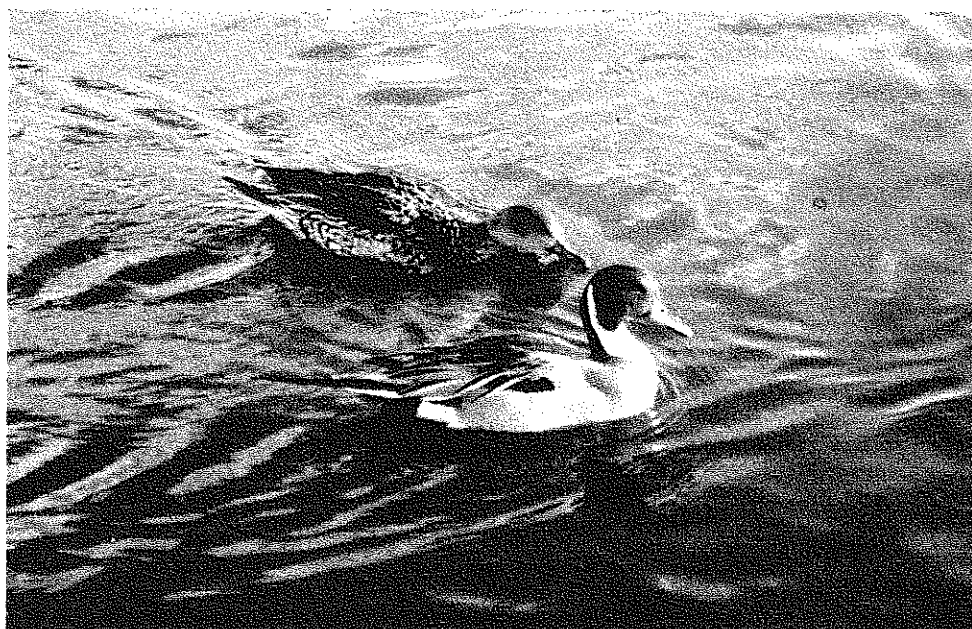


2003年度

# 水鳥一斉調査

《豊中市内の池・河川について》



2004年5月

NPO法人 とよなか市民環境会議アジェンダ21

自然部会

## 目 次

はじめに .....	1
調査方法 .....	2
豊中市全図 .....	3
豊中市内水鳥調査結果（池） .....	4
豊中市内水鳥調査結果（川）と池別鳥の種類数 .....	5
市内の池及び河川の水鳥調査結果について .....	6
調査結果の集計（その1）－種類別飛来数を見る－ .....	8
調査結果の集計（その2）－池別の飛来数を見る－ .....	9
調査結果の集計について考察 .....	10
各池・河川における前回調査との比較（表） .....	11
前回（2000年）調査との比較 .....	14
水鳥と池の解説 .....	15
2003年度 陸鳥調査（表） .....	19
陸鳥の調査について .....	20
調査協力者感想と特記事項 .....	21
調査協力者名簿 .....	23
カラー図版等資料 .....	24
おわりに .....	28

## はじめに

1992年リオの地球サミットで、生態の保護を目的に生物多様性条約が策定され、また、各自治体に対して地球環境問題を解決する為のローカルアジェンダ策定が盛り込まれた「アジェンダ21」も策定された。

それを受けて、豊中では市の呼びかけに集まった多くの市民が学識者のアドバイスを受けつつ議論を重ね2年以上の期間をかけ作り上げ、1999年3月豊中市民環境会議策定の-101の行動提案「豊中アジェンダ21」-が確定した。

しかし、5年経過した今も豊中の自然は減少し続けている。アジェンダを解決するためには「2003とよなか春の野草調査」でまとめられた報告にあるように保護、保全の手立てが出来る実効性のあるものが必要なのではないか。

今回の水鳥一斉調査は、その方策の一つであるが、「広報とよなか」一般市民にも参加を呼び掛け、2000年と同様の調査方法で実施した。

新修豊中市史「自然編」によると、豊中の鳥の調査は笹川昭雄氏が1936年から観察記録を残されて以後今年で68年目である。その後、天筒靖昌氏をはじめ多数の研究者が長期にわたる記録を整理・統合され貴重な財産となっている。

水鳥の一斉調査も豊中市教育委員会「生物・地学部会」が定期的に調査を行っていたが、市内全域の池や川を一斉に調査するその手法は、長年に亘る同会の地道な活動の中で作り上げられ、この度のアジェンダ21・自然部会の調査に引き継がれている。

“先人の苦勞をしのび、安らぎとうるおいをもたらすため池を残そう”と行動提案33にまとめられているが、農村として発展したわが町“とよなか”では水はかけがえのないもので、人々は川や池の堤防を築き農を営みくらして来た。日照りが続けば干ばつに苦しめられ、大雨が降れば洪水というこの土地で、常に、ため池や川の補修に力を合わせこの“とよなか”の地が作られたのである。また、川や池は魚や貝、水草の実等、豊かな生物を育み、その自然の恵みの中で子どもたちも育てられてきたのである。

今年の冬、この豊中の川や池へ来てくれた渡鳥や、カルガモやカイツブリ等留鳥たちのずっと昔の親もこの豊中ぐらだったのだろうか。住み心地など聞いてみたいものだ。

毎年冬季に市民参加の水鳥観察会を開催するが、バードスコープを覗いて多くの鳥を間近に観察した参加者は、自然の造形の美しさ、不思議さ、おもしろさにおもわず感嘆の声をあげられている。

朝がたに 小鳥の声で 目が覚める

いのちの営み 発見できるまち (望ましい環境像)

調査のまとめは、豊中市の施策に生かされるようにしたい。それは豊中市環境基本条例と理念と目標を同じくする豊中アジェンダ21を推進する自然部会の役割と考えられるからである。

## 調査方法

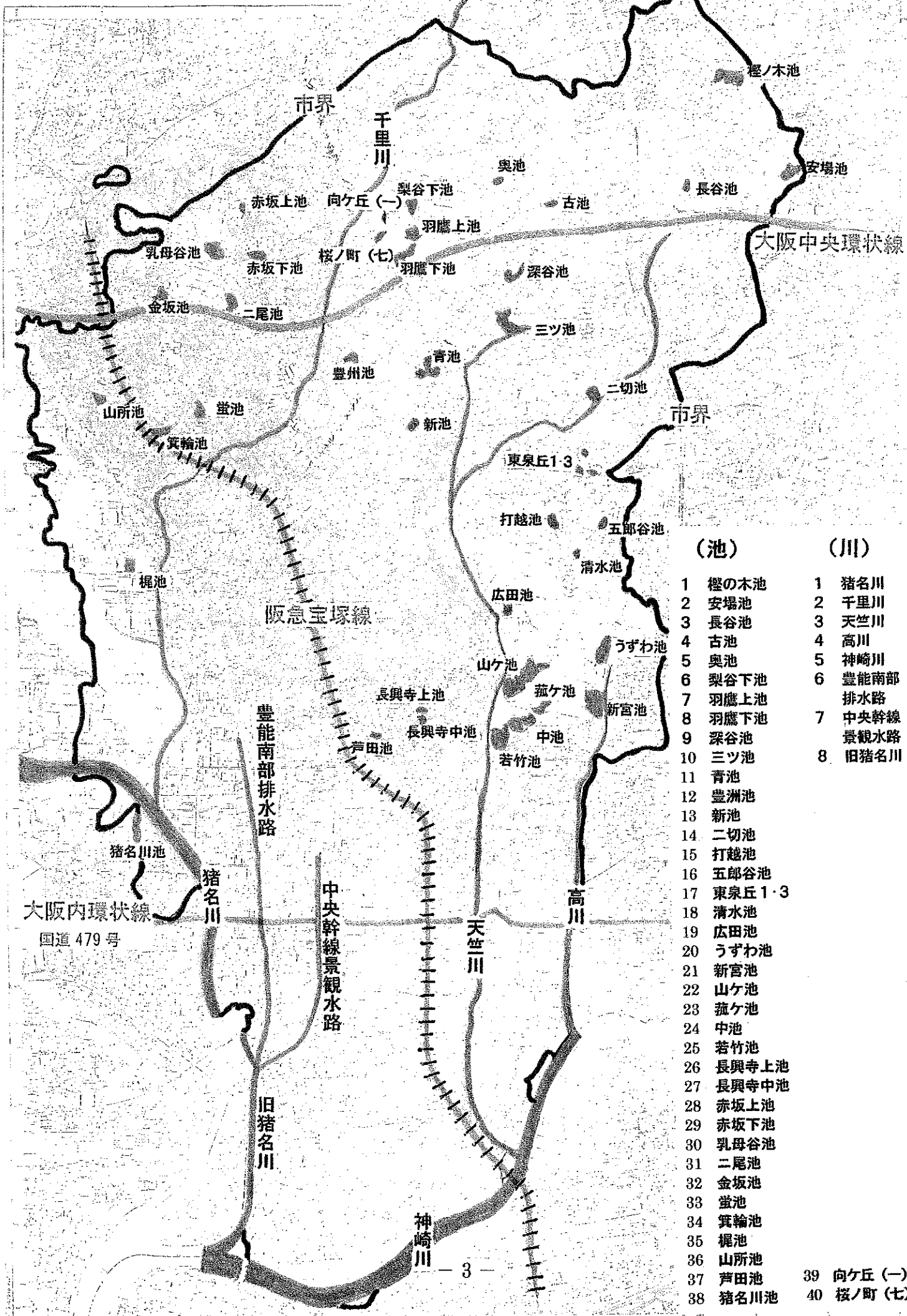
### (一) 調査方法

- (1) 調査日 2004年1月24日(土) 9時～12時
- (2) 調査範囲 豊中市内全域の池及び河川
- (3) 調査対象 水鳥及び水辺の鳥を対象とするが、陸鳥についても出来るだけ記録する
- (4) 調査 \*38池と1特別区を4区域に、7河川を5区域に分けて実施(1区域2～数名)  
\*各池及び河川ごとの水鳥について種名と個体数を所定用紙に記録する  
\*陸鳥については「その他特記事項」欄に記入する
- (5) 調査協力者「広報とよなか」で一般市民を募集(37名参加)

### (二) 事前説明会

調査の統一化を計り、留意事項などについて事前説明会を開催した。説明会后近くの箕輪池で観察会を行った

- (1) 日時 2004年1月17日(土) 10～12時
- (2) 場所 蛍池公民館
- (3) 参加者 24名
- (4) 配付資料 水鳥一斉調査概要、豊中市の池及び河川地図、調査記録用紙、鳥のカラー図版、自然調査員の証
- (5) 班分け 全体を9区域として担当分けを行った
- (6) 調査時の留意点 \*鳥の種類によっては好んで物陰に入るものもある(ヨシの中にバンやカイツブリ、木陰や土手下にひそむマガモ、カルガモなど)  
\*高川のように小さな川の場合、立ち止まったり、双眼鏡やカメラを向けると飛び去ることが多いので近すぎ過ぎない  
\*オスの識別は容易であるがメスは紛らわしい  
\*セキレイの識別をはっきりしておきたい
- (7) 調査当日の準備物 記録用紙、筆記具、双眼鏡、フィールドスコープ、鳥のカラー図版、カメラ等
- (8) 結果の報告 1月31日迄環境保全課へ持参又は郵送
- (9) 写真 出来れば2, 3枚提出を依頼
- (10) 調査日連絡 環境保全課 TEL6858-2102



- | (池)       | (川)        |
|-----------|------------|
| 1 櫻の木池    | 1 猪名川      |
| 2 安場池     | 2 千里川      |
| 3 長谷池     | 3 天竺川      |
| 4 古池      | 4 高川       |
| 5 奥池      | 5 神崎川      |
| 6 梨谷下池    | 6 豊能南部排水路  |
| 7 羽鷹上池    | 7 中央幹線景観水路 |
| 8 羽鷹下池    | 8 旧猪名川     |
| 9 深谷池     |            |
| 10 三ツ池    |            |
| 11 青池     |            |
| 12 豊洲池    |            |
| 13 新池     |            |
| 14 二切池    |            |
| 15 打越池    |            |
| 16 五郎谷池   |            |
| 17 東泉丘1・3 |            |
| 18 清水池    |            |
| 19 広田池    |            |
| 20 うずわ池   |            |
| 21 新宮池    |            |
| 22 山ヶ池    |            |
| 23 菰ヶ池    |            |
| 24 中池     |            |
| 25 若竹池    |            |
| 26 長興寺上池  |            |
| 27 長興寺中池  |            |
| 28 赤坂上池   |            |
| 29 赤坂下池   |            |
| 30 乳母谷池   |            |
| 31 二尾池    |            |
| 32 金坂池    |            |
| 33 蛭池     |            |
| 34 箕輪池    |            |
| 35 梶池     |            |
| 36 山所池    |            |
| 37 芦田池    |            |
| 38 猪名川池   |            |
|           | 39 向ヶ丘 (-) |
|           | 40 榎ノ町 (七) |

# 市内の池及び河川の水鳥調査結果について

2004年1月24日 市内のすべての池及び河川の水鳥の一斉調査を行い、次のような結果を得ることができた。

## 1 調査の結果

	池	河川
調査の対象	40カ所	6河川2排水路
鳥の生息を確認	32カ所(80%)	6河川2排水路(100%)
鳥の種類と個体数	22種809羽	23種1096羽
種類と個体数合計	26種	1905羽

## 2 結果の考察・分析の前に

池については鳥の確認できなかった9カ所の池を除き、32カ所の池について考察する。また河川については全ての河川で確認できたので対象とする。水鳥の生息確認の池と河川の地図参照

確認された水鳥は26種類 であるが、それぞれの個体数については大きな差が見られる。

資料1 資料2 資料3

## 3 資料1～3について

### (1) 資料1 池の調査結果について

・池全体で確認された水鳥は 22種・809羽 であった。

#### ① 池について

・鳥の個体数の最も多いのは 新宮池の174羽 次いで 山ヶ池138羽、続いて 箕輪池97羽、うずわ池62羽、中ノ池58羽。ここまでの合計529羽(65%)。このうち服部緑地の4つの池で種類数 16種(72%) 個体数 432羽(53%)と池全体の種類数で7割強、個体数で5割以上を見る事ができた。

・鳥の種類数の最も多い池は 三ッ池で11種類。次いで箕輪池10種類。新宮池、山ヶ池、うずわ池が9種類。池の平均は4種類であった。

#### ② 鳥について

・今回市内の池で見られた水鳥は 22種 809羽であった。

・個体数が最も多かったのは、ハシビロガモ 215羽(26、6%) 次いでキンクロハジロ 86羽、ヒドリガモ 78羽、ホシハジロ 64羽 と続く。資料1  
ハシビロガモが全体の1/4強と群を抜いて多く、キンクロハジロ、ヒドリガモ、ホシハジロを合わせた数に匹敵する。ここまでの計は 443羽 で全体の約55% 半数以上を占める。

・頻度で見ると最もよく見られたのは バンで13、次ぎは マガモ 11、次いで キンクロハジロ10、ハシビロガモ、ホシハジロ、カルガモ、アオサギの各9、ヒドリガモ、カワウ、カイツブリ、コサギの各8 と続く。即ちこれら鳥はどこかの池でかなり見える確率が高い水鳥だと言える。

・個体数と頻度の関係で見ると、個体数の多いハシビロガモ (215羽 9頻度) キンク

ロハジロ (86・10) ヒドリガモ (78・8) ホシハジロ (64・9) 等の頻度は高くなる。しかしバン (43・11) やアオサギ (16・9) カワウ (26・8) カイツブリ (20・8) 等のように個体数のそんなに多いとは言えない鳥でも頻度の高い鳥もある。

### ③ 池と鳥の関係について

毎年多くの種類の鳥が訪れる池や、数が多いが種類はあまり多くない池、またこれまで余り鳥を見なかった池に急に多く見られるようになったり、毎年多く見られていた池の鳥の数が減ってしまったりするなど、解らないことも多くある。これらについては今後の研究が待たれる。

## (2) 河川の調査結果について

・河川で確認された水鳥は 23種1096羽 で種類数・個体数ともに池より多い。

### ① 河川について

・鳥の個体数の最も多く見られたのは神崎川の 495羽 で、全個体数の 45% にもなる。続いで猪名川 386羽 35%、千里川 122羽 11%、この3つの河川で河川全体の 9割を越える。あと天竺川、中央幹線排水路と続く。

・鳥の種類数で見ると、猪名川の 17種類、千里川の 11種類、天竺川の 8種類、神崎川の 7種類と続く。

### ② 鳥について

個体数はユリカモメが 473羽 43% と最も多く、次いで ヒドリガモ 205羽 18% カルガモ、ハクセキレイの 74羽各7% と続く。

・頻度で見ると ハクセキレイが 8 で最も高く、次いで セグロセキレイ 6、ユリカモメ、カルガモ、カワウ、アオサギ、の各5 と続く。

この結果から ユリカモメ のように 4割 を越す個体数が見られるのに、頻度がそれほど高くないのは、群れを作ることと かかなり広い水面や深さを必要とするその鳥の特徴であろう。

---

今回の調査結果を見ると、いずれの表にも現れているように、池や河川へ飛来する水鳥の数が前回のそれに比べて増えている。開発が進み、池の埋め立てが進む中でのこの現象は何を意味するのであろうか。

まとめる中で考え、話し合ったものを上げると、①前回は調査時期が少し早かった、②鳥が住民に対する警戒心を持たなくなっている（鳥への心くばり、無関心も併せて）、③豊中以上に周辺地域の開発が進行しているのでは、④全国的・世界的に保護・保全の思想が高まり絶対数が増加しているのでは、などである。

---

2003年度豊中市内水鳥調査（池）

資料 1

池番号	21	22	34	20	24	11	6	3	2	10	5	3	2	8	3	5	1	9	3	1	15	3	1	2	14	7	1	8	2	5	2	6	2	9	個	頻	前	前
	新	山	箕	う	中	青	梨	金	三	奥	蛸	安	羽	梶	広	檜	深	猪	二	乳	五	打	長	豊	二	羽	清	若	長	赤	向	桜	個	頻	前	前		
	宮	ガ	輪	ず	ノ	谷	坂	ツ		ケ	場	鷹	田	ノ	谷	名	尾	母	郎	越	谷	池	池	切	上	池	池	寺	下	丘	町	体	類	回	回			
	池	池	池	池	池	池	池	池	池	池	池	池	池	池	池	池	池	池	池	池	池	池	池	池	池	池	池	池	池	池	池	池	池	数	数	数	数	
ハシビロガモ	137		31	32	2	1	9	1	1	1																							215	9	178	7		
キンクロハジロ	4	42	17	3	2	4	2	4		2				6																				86	10	18	5	
ヒドリガモ		60			4		1			1			4	5							2							1						78	8	110	6	
ホシハジロ	9	2	223	13	11		1	2															1											64	9	41	6	
マガモ				4			10	4	9	6	12			1	2	5	3									1								57	10	45	9	
オナガガモ		4	32	13																														49	3	33	5	
カルガモ	8		8	10	3	1				1	2		10								1													44	11	42	5	
バン	3	16		7	1		2	1					2	2								4	1	2	1	1								43	13	19	6	
ゴイサギ	4		3		2	6				12	1																							28	7	7	2	
カワウ				2	8		1	5		6			1	2																				26	8	5	3	
ヨシガモ		7			14																	1												22	3	14	1	
カイツブリ	4		1	2	3	2	6			1			1																					20	8	15	9	
オカヨシガモ		4				6				2	3	2																						17	5	15	2	
アオサギ	4		1	5	1		1	1		1				1								1												16	9	9	9	
コガモ												6									5													11	2	2	1	
コサギ	1		1	2		1	2	1		1		1		1																				10	8	8	8	
ハクセキレイ		1		1			2						1	3																				10	7	10	9	
ユリカモメ			1								3																							4	2	21	3	
オオバン		2						1																										3	2	1	1	
カワセミ				1		1																	1											3	3	5	5	
ダイサギ							1						1																					2	2	1	1	
セグロセキレイ											1																							1	1	7	4	
個体数	174	138	97	62	58	32	28	27	25	25	20	19	18	12	12	11	10	7	5	5	4	4	4	3	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1809				
種類数	9	9	10	9	8	4	9	8	11	5	6	8	4	5	3	5	4	2	1	1	2	1	3	2	2	1	1	1	1	1	1	1						
前回個体数	36	43	122	31	38	43	15	0	80	77	8	3	15	12	12	4	0	0	0	2	1	6	0	16	2	7	3	0	0	0	0	0		621				
前回種類数	7	4	8	7	7	5	4	0	9	1	6	3	6	5	1	5	0	0	0	0	1	1	2	0	6	2	4	1	0	0	0	0						

前回の調査で確認されたが、今回確認できなかった鳥

ミコアイサ、キセキレイ、チュウサギ、オシドリ、

今回の調査で鳥を確認できなかった池

4古池 13新池 17東和泉丘1・3 23菰ヶ池 27長興寺中池 36山所池 37芦田池



2003年度市内水鳥調査

資料 2

資料 3

	神 崎 川	猪 名 川	千 里 川	天 竺 川	中 央 幹 線 排 水	旧 猪 名 川	豊 能 南 部 排 水	高 川	個 体 数	前 回 個 体 数	頻 度 数	前 回 頻 度 数
ユリカモメ	440	19	3		10	1		473	359	5	4	
ヒドリガモ	5	198				2		205	132	3	3	
カルガモ	6	31	26	9			2	74	58	5	5	
ハクセキレイ	9	10	19	29	1	2	1	74	33	8	4	
コガモ		69						69	11	1	1	
カワウ	17	5	6		1	2		31	79	5	3	
セグロセキレイ		1	11	8	3		3	27	62	6	5	
ハシビロガモ		26						26	20	1	1	
コサギ		3	20	1				24	24	3	4	
アオサギ		4	8	6	1	1		20	19	5	5	
セグロカモメ	15							15	1	1	1	
カワセミ		1	8	2				11	9	3	2	
ダイサギ		2	8					10	6	2	2	
ホシハジロ	1					7		8	4	2	1	
ゴイサギ		2	2			1		5	1	3	1	
マガモ		1		3				4	31	2	3	
オカヨシガモ		4						4		1		
イソシギ		4						4		1		
カイツブリ		3						3	1	1	1	
キセキレイ			1	2				3	8	2	3	
キンクロハジロ		2						2		1		
カモメ	2							2		1		
バン		1						1	2	1	1	
種類数	7	17	11	8	5	7	3	2				
前回種類数	7	15	10	7	1	2	3	7				
個体数	495	386	122	60	16	16	16	41095				
前回個体数	352	277	112	46	4	2	5	84	862			

池の鳥の種類数

三ッ池	11
箕輪池	10
新宮池	9
山ヶ池	9
うずわ池	9
梨谷下池	9
中ノ池	8
金坂池	8
安場池	8
螢池	6
青池	5
奥池	5
梶池	5
壱ノ木池	5
羽鷹下池	4
深谷池	4
広田池	3
長谷池	3
猪名川池	2
五郎谷池	2
豊洲池	2
二ノ切池	2
二尾池	1
乳母谷池	1
打越池	1
羽鷹上池	1
清水池	1
若竹池	1
長興寺上池	1
赤坂下池	1
向ヶ丘1	1
桜ノ町7	1
平均	4

調査結果の集計(その1) 種類別飛来数を見る

☆印: その回のみ確認

今回(2004. 1. 24)調査結果					前回(2000. 12. 3)調査結果								
観 種 名	個体数			頻度数		観 種 名	個体数			頻度数			
	計	池	川	計	池		川	計	池	川	計	池	川
1 ユリカモメ	477	4	473	7	2	5	1 ユリカモメ	380	21	358	7	3	4
2 ヒドリガモ	283	78	205	11	8	3	2 ヒドリガモ	242	110	132	9	6	3
3 ハシビロガモ	241	215	26	10	9	1	3 ハシビロガモ	198	178	20	8	7	1
4 カルガモ	118	44	74	14	9	5	4 カルガモ	100	42	58	10	5	5
5 キンクロハジロ	88	86	2	11	10	1	14 キンクロハジロ	18	18		5	5	
6 ハクセキレイ	84	10	74	15	7	8	9 ハクセキレイ	43	10	33	13	9	4
7 コガモ	80	11	69	3	2	1	19 コガモ	13	2	11	2	1	1
8 ホシハジロ	72	64	8	12	10	2	8 ホシハジロ	45	41	4	7	6	1
9 マガモ	61	57	4	11	9	2	6 マガモ	76	45	31	12	9	3
10 カワウ	57	26	31	12	7	5	5 カワウ	84	5	79	6	3	3
11 オナガガモ	49	49		3	3		10 オナガガモ	35	33	2	6	5	1
12 バン	44	43	1	12	11	1	13 バン	21	19	2	7	6	1
13 アオサギ	37	16	21	12	7	5	12 アオサギ	28	9	19	14	9	5
14 コサギ	34	10	24	11	8	3	11 コサギ	32	8	24	12	8	4
15 ゴイサギ	33	28	5	9	6	3	22 ゴイサギ	8	7	1	3	2	1
16 セグロセキレイ	28	1	27	7	1	6	7 セグロセキレイ	69	7	62	9	4	5
17 カイツブリ	23	20	3	9	8	1	15 カイツブリ	16	15	1	10	9	1
18 ヨシガモ	22	22		3	3		17 ヨシガモ	14	14		1	1	
19 オカヨシガモ	21	17	4	6	5	1	16 オカヨシガモ	15	15		2	2	
20 セグロカモメ	15		15	1		1	24 セグロカモメ	1		1	1		1
21 カワセミ	14	3	11	6	3	3	18 カワセミ	14	5	9	7	5	2
22 ダイサギ	12	2	10	4	2	2	23 ダイサギ	7	1	6	3	1	2
23 イソシギ ☆	4		4	1		1	21 ミコアイサ ☆	10	10		1		1
24 キセキレイ	3		3	2		2	20 キセキレイ	11	3	8	6	3	3
25 オオバン	3	3		2	2		24 オオバン	1	1		1	1	
26 カモメ ☆			2	1		1	24 チュウサギ ☆	1	1		1	1	
							24 オシドリ ☆	1	1		1	1	
合 計	1905	809	1096	195	132	63	合 計	1483	621	862	164	113	51

調査結果の集計 (その2) 池別の飛来数を見る

☆印: その回のみ確認

今回(2004. 1. 24)調査				前回(2000. 12. 3)調査			
順位	池名	個体数	種類数	順位	池名	個体数	種類数
1	新宮池	174	9	7	新宮池	36	7
2	山ヶ池	138	9	4	山ヶ池	43	4
3	箕輪池	97	10	1	箕輪池	122	8
4	うづわ池	62	9	9	うづわ池	31	7
5	中ノ池	58	8	6	中ノ池	38	7
6	青池	32	5	4	青池	43	5
7	梨谷下池	28	9	12	梨谷下池	15	4
8	金坂池 ☆	27	8	25	芦田ヶ池 ☆	1	1
9	三つ池	25	11	2	三つ池	80	9
10	奥池	25	5	14	奥池	7	1
11	蛍池	20	6	3	蛍池	78	6
12	安場池	19	8	19	安場池	3	3
13	羽鷹下池	18	4	12	羽鷹下池	15	6
14	梶池	12	5	8	梶池	33	10
15	広田池	12	3	25	広田池	1	1
16	檜ノ木池	11	5	10	檜ノ木池	24	5
17	深谷池	10	4	22	深谷池	2	2
18	猪名川池 ☆	7	2	17	菰ヶ池 ☆	4	3
19	二尾池 ☆	5	1	19	山所池 ☆	3	3
20	乳母谷池	5	1	22	乳母谷池	2	1
21	長谷池 ☆	4	3	17	鬮輔中池 ☆	4	3
22	五郎谷池	4	2	25	五郎谷池	1	1
23	打越池	4	1	16	打越池	6	2
24	豊州池	3	2	11	豊州池	16	6
25	二ノ切池	2	2	22	二ノ切池	2	2
26	羽鷹上池	1	1	14	羽鷹上池	7	4
27	清水池	1	1	19	清水池	3	1
28	長興寺上池 ☆	1	1	25	東泉丘1 ☆	1	1
29	若竹池 ☆	1	1				
30	赤坂下池 ☆	1	1				
31	向ヶ丘1 ☆	1	1				
32	桜ノ町7 ☆	1	1				
合計		809	22種	合計		621	27種

## 調査結果の集計について考察

今回の調査の結果を確認された種類数別にその飛来数を池と河川別に、前回と対比したのが「その1」の表である。また同じく、池別に飛来した個体数と種類数を集計し、前回と対比したのが「その2」の表である。

### 調査結果の集計（その1）考察

飛来していることが確認された種類数を見ると、両回共通するのは24種で、今回のみの確認がイソシギとカモメの2種で、前回のみの確認はミコアイサ、チュウサギ、オシドリりの3種であった。したがって、前回は27種、今回は26種の飛来が確認された。

今年は個体数の合計が1905羽で昨年より422羽の増となっている。池は809羽で188羽の増、河川が1096羽で234羽の増で、池・河川とも今回が大幅な増となっている。

池と河川で見ると、種類数としては明らかな差異は見られないが、個体数では両回とも河川が多く、その差は200羽以上であった。

河川で多く見られたのはユリカモメ、ヒドリガモ、カルガモ、ハクセキレイ、コガモ、セキレイの仲間、などで、池に多く見られたのはハシビロガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、マガモ、オナガガモ、バン、ヨシガモ、オカヨシガモそれにサギの仲間であったが、この傾向は前回と今回の調査のいずれにも共通しており興味深い。しかしこのことは頻度数では必ずしも言えないところを見ると偶然のようにも思われ、今後の調査の課題としたい。ただヨシガモについては、今回の22羽、前回の14羽と比較的数が多いのに池でのみの確認であるところを見ると河川より池を好むようである。

### 調査結果の集計（その2）考察

池別の飛来状況を見ると、個体数が多いのは新宮池の174羽、山ヶ池の138羽が群を抜き、次いで箕輪池の97羽、うづわ池62羽、中の池58羽、青池33羽と続き、その後は20羽代の5個の池が続いている。ここで注目されるのは、個体数の多い順位5番までの3位の箕輪池を除く4個の池が服部緑地公園内にある、その合計432羽は豊中市内の池に飛来する水鳥の過半数にもなっていることである。種類数で見ても市内の池で確認された22種の中の17種、実に77%にも及んでいる。

前回と対比して見ると、水鳥の飛来が両回とも確認された池が23個で、前回のみで今回は確認されなかった池が5個、今回のみの確認が9個で、今回は前回よりも4個多くの池で確認されている。この内注目されるのは、金坂池である、この池は池の解説のところでも述べているように、現在工事中なのである。今回、前回のいずれかでのみ確認されている多くの池が1羽か数羽までであるのに金坂池だけは前回の確認がなくて今回は8種類27羽もの確認がされていることに意外性が感じられるところである。

今回の飛来数が前回より188羽と大きく増加しており、特に、新宮池と山ヶ池の増加が目立つ。逆に箕輪池、三ツ池、蛍池、豊州池では減少している。このような数の違いはばらつきとして常にあることなのか、或いは何かの要因によるものなのか興味のあるところである。ただ前回調査の段階で、12月3日は調査の時期として少し早いのではないかと懸念したいきさつがあり、次回の調査実施の時期の参考にする必要がある。

各池・河川における前回調査との比較 (1)

池	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20																			
檀の 木池	安場 池	長谷 池	古池	奥池	梨谷 下池	羽鷹 上池	羽鷹 下池	深谷 池	三ツ 池	青池	豊洲 池	新池	二切 池	打越 池	五郎 谷池	東丘1 -3	清水 池	広田 池	うずわ 池																				
年	00	04	00	04	00	04	00	04	00	04	00	04	00	04	00	04	00	04	00	04																			
月	12	1	12	1	12	1	12	1	12	1	12	1	12	1	12	1	12	1	12	1																			
水鳥名	00	04	00	04	00	04	00	04	00	04	00	04	00	04	00	04	00	04	00	04																			
1 カイツブリ	1	1					2		1	6										2																			
2 カンムリカイツブリ																					2																		
3 カワウ	1	1	6				3		2	5											2																		
4 ゴイサギ			1			2																																	
5 ダイサギ										1	1									1																			
6 コサギ		1	1			1	1			1	1	1								1	2																		
7 アオサギ		1	1													1																							
8 オシドリ																					5																		
9 マガモ		6			7	9	12	3	7	12	1	7	4			3	3	1			1	4																	
10 カルガモ		2									1	6			1						10	2	10																
11 コガモ				1							14	14																											
12 ヨシガモ																																							
13 オカヨシガモ						6		3		10																													
14 ヒドリガモ	20	4		2			1			31	1	21	4																										
15 オナガガモ																								13															
16 ハシビロガモ			1			9				6		4																											
17 ホシハジロ					2	11	2			8	1	6	13		1									23	23														
18 キンクロハジロ					4	2		2		6	9	2		4											2														
19 ミコアイサ																																							
20 バン	2			1		1	1			7	2	1	2	2	2	4																							
21 オオバン											1																												
22 セグロカモメ																																							
23 ユリカモメ																																							
24 カワセミ	1	1				1	1							1											1														
25 キセキレイ																										1													
26 ハクセキレイ	1	3				1	1	1		1									1							1													
27 セグロセキレイ												2																											
28 カモメ																																							
29 イシギ																																							
30 チュウサギ																																							
種類数	5	5	3	8	0	3	0	0	1	5	4	2	4	9	11	5	4	6	2	0	0	2	2	2	1	1	2	0	0	1	1	1	3	7	9				
個体数	24	11	3	19	0	4	0	0	7	25	15	28	7	1	15	18	2	10	80	25	43	32	16	3	0	2	2	6	4	1	4	0	0	3	1	1	12	31	62

各池・河川における前回調査との比較 (2)

池名	21 新宮池	22 山ヶ池	23 菰ヶ池	24 中ノ池	25 若竹池	26 長興寺上池	27 長興寺中池	28 赤坂上池	29 赤坂下池	30 乳母谷池	31 二尾池	32 金坂池	33 螢ヶ池	34 箕輪池	35 梶池	36 山所池	37 芦田池	38 猪名川池	39 ヶ丘1 桜町7	南門前 池・東 泉池																		
年	00 04	00 04	00 04	00 04	00 04	00 04	00 04	00 04	00 04	00 04	00 04	00 04	00 04	00 04	00 04	00 04	00 04	00 04	00 04	00 04																		
月	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12																		
水鳥名	3	4		3		1							2	1	1	3																						
1カインブリ																																						
2カンムリカイツブリ																																						
3カワウ				1	8							1								1																		
4ゴイサギ		4										6	4	12	3	3																						
5ダイサギ																																						
6コサギ		1				1						2	1							1																		
7アオサギ		4		1								1	1	1																								
8オシドリ	1																																					
9マガモ	1							5	10									2																				
10カルガモ	27	8		3		2						1	8	5																								
11コガモ										2	5																											
12ヨシガモ																																						
13オカヨシガモ																																						
14ヒドリガモ				5									2																									
15オナガガモ				1		1																																
16ハシビロガモ				1									9	16	32	3																						
17ホシハシロ	137	3		23	32							1	47	1	94	31	1																					
18キンクロハシロ	1	9												2	1																							
19ミコアイサ	2	4		3								4			17					1																		
20バン	1	3		6	7	1									10																							
21オオバン															2																							
22セグロカモメ		1	2																																			
23ユリカモメ																																						
24カワセミ																																						
25キセキレイ				1																																		
26ハクセキレイ				1																																		
27セグロセキレイ				1																																		
28カモメ																																						
29インシギ																																						
30チュウサギ																																						
種類数	7	9	4	9	3	0	1	0	0	0	1	1	0	8	6	6	8	10	10	5	0	0	2	4														
個体数	36	174	43	138	4	0	38	58	0	1	0	1	4	0	0	0	1	2	5	0	5	0	27	78	20	122	97	33	12	0	0	1	0	0	7	0	2	4

各池・河川における前回調査との比較 (3)

○ 2以上の増加 ◎ 目立って増加 △ 2以上の減少 ▲ 目立って減少

川名	① 猪名川		② 千里川		③ 天竺川		④ 高川		⑤ 神崎川		⑥ 豊能南部排		⑦ 中央幹線景観水路		⑧ 旧猪名川	
	年	月	00	04	00	04	00	04	00	04	00	04	00	04	00	04
水鳥名	12	1	12	1	12	1	12	1	12	1	12	1	12	1	12	1
1 カイツブリ	1	3														
2 カンムリカイツブリ																
3 カワウ	12	5	6		3	64	17									2
4 ゴイサギ	2	2	2													1
5 ダイサギ	2	2	4	8												1
6 コサギ	7	3	14	20	1	1					2					
7 アオサギ	9	4	4	8	6				3		2					1
8 オンドリ																
9 マガモ	17	1	4		10	3										
10 カルガモ	22	31	4	26	19	9	4		9	6	2					
11 コガモ	11	69														
12 ヨシガモ																
13 オカヨシガモ	4															
14 ヒドリガモ	120	198			1				11	5						2
15 オナガガモ	2															
16 ハシビロガモ	20	26														
17 ホシハジロ									4	1						7
18 キンクロハジロ	2															
19 ミコアイサ																
20 バン	2	1														
21 オオバン																
22 セグロカモメ								1		15						
23 ユリカモメ	40	19	20	3			45		254	440			10			1
24 カワセミ	1	1	8	8	2											
25 キセキレイ			5	1	2	2					1					
26 ハクセキレイ	10	10	19	9	29	7	3	7	9		1		1			2
27 セグロセキレイ	11	1	19	11	6	8	22	1			3	4	3			
28 カモメ										2						
29 イソシギ	4															
30 チュウサギ																
種類数	15	19	10	11	6	8	7	2	7	8	3	3	1	5	2	7
個体数	277	386	92	112	46	60	84	4	352	495	5	6	4	17	2	16

池名	池頻度		川頻度		総頻度		池個体数合計	川個体数合計		全個体数合計	
	00	04	00	04	00	04		00	04	00	04
増	12	1	12	1	12	1	12	1	12	1	12
減	15	20	1	1	10	9	15	20	1	3	16
◎											
▲	5	26	3	5	6	13	5	26	79	31	84
◎	7	28	1	3	3	9	7	28	1	5	8
◎	1	2	2	2	3	4	1	2	6	10	7
◎	8	10	4	3	12	11	8	10	24	24	32
◎	9	16	5	5	14	14	9	16	19	21	28
◎	1				1		1				1
◎	45	57	3	2	12	13	45	57	31	4	76
△	42	44	5	5	10	14	42	44	58	74	100
◎	2	11	1	1	2	3	2	11	11	69	13
◎	14	22			1	3	14	22			14
◎	15	17	1	1	2	6	15	17	4	4	15
◎	110	78	3	3	9	11	110	78	132	205	242
◎	33	49	1	1	6	3	33	49	2	2	35
◎	178	215	1	1	8	10	178	215	20	26	198
◎	41	64	1	2	7	11	41	64	4	8	45
◎	18	86	1	1	5	11	18	86	2	2	18
◎	10				1		10				10
▲	19	43	1	1	7	14	19	43	2	1	21
◎	1	3			1	2	1	3			1
◎			1	1	1	1			1	15	1
◎	21	4	4	5	7	7	21	4	359	473	380
◎	5	3	2	3	7	6	5	3	9	11	14
◎	3		3	2	6	2	3		8	3	11
▲	10	10	4	8	13	15	10	10	33	74	43
◎	7	1	5	6	9	7	7	1	62	27	69
▲			1	1	1				2	2	2
◎	1		1	1	1		1			4	4
◎					1						1
◎											
総個体数	621	809	20	23	27	26	621	809	862	1096	1483
種類数	15	19	10	11	6	8	15	19	10	11	19

## 前回(2000年)調査との比較

### A 増減の様子について

1. 池、川共に全体で前回よりも個体数が増加している。総個体数が1483羽から1905羽となっている。しかし種類別に見ると減少しているものに、池でヒドリガモ、ミコアイサ、ユリカモメ、カワセミ、キセキレイ、セグロセキレイ、川でカワウ、マガモ、オナガガモ、キセキレイ、セグロセキレイがある。
2. ミコアイサが梶池ではほぼ毎年見られたのに今年は1羽も見られていない。またこの梶池で見られる種類が前回とすべてかわっている。個体数も減少している。これらのことは、池の面積が約1/3になり、埋め立てなどによって池の環境が変わったことと関係があると思われる。
3. ユリカモメとカワセミは池では減少しているが川で増加しており、全体ではユリカモメは増加、カワセミは変化していない。
4. カワウは川では個体数が半減しているが頻度は増加しているので分散の傾向と見られる。一方池においては頻度数が2から5、個体数が5羽から26羽と共に増加しているので、川から池に餌を求めて移動しているとも考えられる。
5. サギ類も池での個体数が増加しており、カワウと共に池周辺の樹木を枯らす原因をつくるのが心配される。
6. カモ類はマガモ、カルガモ、ヒドリガモ、オナガガモ以外は頻度・個体数共に増加しており、個体数の増加は平均約2.6倍に達している。マガモは池で増加するものの川で減少して、全体で76羽から61羽に減少している。カルガモは全体で100羽から118羽の増加である。ヒドリガモは池で減少し川で増加したが全体で242羽から283羽となりカルガモと同じく1.2倍弱の増加にとどまる。オナガガモが池では増えているのに、川で見られなくなったことには何か理由があるのだろうか。
7. キセキレイ、セグロセキレイは頻度・個体数共に減少している。しかし一方、ハクセキレイは川で大きく増加し、個体数が33羽から74羽と2倍以上になっている。

### B 水鳥が減少した池について

1. 三ツ池 前回 80 羽のところ今回 25羽、池の水が少なくなっていることが影響していると思われる。
2. 菰ヶ池 日頃から釣り人が多い池であり、調査時に釣り人がいたかどうか水鳥の数に影響していると思われる。
3. 古池 過去にオシドリも飛来したこともある池だが、最近釣り人が多くなって、水鳥が寄りつかなくなったようである。
4. 赤坂下池 かつてコガモが毎冬 10 羽ほど来ていたし、タシギが姿を見せたこともある池であるが、近年は冬中水をぬいているので水鳥をほとんど見ない。かわりに乳母谷池でコガモを見るようになったので池をかえたのかもしれない。



## 水鳥と池の解説

調査対象となった池の数は32で、そこで確認された鳥は22種(河川を含めると26種)であった。それらのうち数が多く確認された幾つかの鳥や池について特徴的なところの解説を試みる。

### 【水鳥について】

#### ユリカモメ 冬鳥

背面が少し灰色がかっている以外は白く、飛んでいるときは白くみえる。クチバシと足が橙色で足には水掻きがあり、身軽で飛ぶことも泳ぐことも得意である。前回は今回も河川での生息が多く確認されており池よりも広い河川を好むようである

#### ヒドリガモ 冬鳥

広く見られる種類で、茶色の頭部正面に色の薄い帯状の縦縞があるのが特徴。メスはオナガガモのメスとよく似ている。猪名川などでは人の気配のない堰堤に上がって芝草をついばんでいるのをよく見かける。幾種類もの水鳥が群がる中でこの鳥はピーピーと通る声で比較的良好よく鳴く。

#### ハシビロガモ 冬鳥

豊中市内では池、川ともに多く見られる鳥で、胸部が白く、腹部が茶色でよく目立ち、特に他のカモ類と比べると、くちばしが広くて大きいことがその名の由来のようで、このくちばしでプランクトンをすくい取って餌にしているそうである。池の表面で数羽から20羽以上もが広くくちばしで水をせわしくすくいながら円を描くように泳ぐ様子が特徴的である。今回の調査でハシビロガモはユリカモメに次いで多く、特に池では群を抜いており次のキンクロハジロの2.5倍にもなっている。

#### ホシハジロ 冬鳥

頭が茶色で胸が黒く、体全体は灰色がかった白っぽい薄茶の少し大型の鳥である。尾が短く体を沈ませたような姿で泳ぐが、このように体が沈んだ姿勢の鳥は潜水が得意で小魚などを餌にしている。以前は櫛ノ木池や青池かうづわ池くらいでしか見られなかったが、最近は多くの池で見られるようになっている。

#### カルガモ 留鳥

この鳥は、カモの仲間では珍しい留鳥で豊中에서도繁殖し、年中見られる。体全体が濃淡まだらな茶色でくちばしの先端だけが黄色。しかも他の鳥と違ってオス・メスの羽色がほぼ同じで区別が難しく、年中羽色が変わらない。マガモ同様に、池の端の木陰や物陰に入り込んでいることが多く、数羽で移動するのは見るが池の中央部で群がって泳ぐ様子を見ることはない。

#### キンクロハジロ 冬鳥

小型のカモで目が金色、体は黒く腹部が真っ白く色彩がはっきりしていて、動きが活発で軽快な感じである。後頭部に垂れている冠羽と言われる羽も目立つ。調査した池の半数近くで確認されている。潜水が得意で、小魚などを餌にしている。メスは体の黒色がいくぶん薄く、腹部も黒っぽくて白くない。今回の調査では川で1カ所2羽の確認であったが、昨年も川での確認がゼロであったことを見ると、河川より池を好んで飛来するようである。

#### マガモ 冬鳥

頭部の青色と首の白いリングが目立ち、灰色っぽい体に黒っぽい縦縞が見られる。たい

てい雌雄がつがいで行動し、池の中央部よりは静かな木陰、物陰に見られることが多く、豊中市内の池や河川では、数多くが群れているのを見ることは少ない。

#### オナガガモ 冬鳥

その名のとおり尾羽がピンと際立って長く首も細くてスマートな感じで、英名はピンテールと言う。この鳥のように尾を水面高く上にあげて泳いでいる水鳥は潜水ができないようで、首を伸ばして届く範囲の水草などを餌にしている。注意していると逆立ちするようにして水面下へ首を伸ばして餌を取っている姿をよく見かける。豊中市内でこの鳥が最近少なくなっているように思えるが今後の継続調査に待ちたい。

#### ヨシガモ 冬鳥

頭部の緑の羽が首のあたりを被うように垂れているようすから“ナポレオンの帽子”と言われる姿が特徴。頭部と尾部のほかは白っぽく、緑がかった尾羽は長く下向きに垂れ、潜水が得意な大型の鳥である。この鳥が最初に姿を見せて20年になるであろうか檜ノ木公園で見られるようになり、10数年前頃に青池で、その後山ヶ池などでも見られるようになったが、大阪府下でも多くは見られない珍鳥の一種である。

#### オカヨシガモ 冬鳥

体全体が薄茶色で嘴と尾の先の部分が黒の地味な色合いで、頭の丸みや長い首などカモの仲間ではほっそりした感じである。この鳥は1985年1月2日に千里の安場池での目撃が豊中で最初の確認であると思われる。その後、青池や打越池、山ヶ池へと広く見られるようになった。

#### バン 留鳥

体全体が黒っぽく、一部腰のあたり水面部に白っぽい縦縞がある、くちばしが赤く、先端部だけ黄色である。水鳥では珍しく、足に水かき用の膜がないが長い指の足で水をかいて上手に泳ぐ。しかし泳ぐ様子は他の水鳥のように流れるようではなく首を前後に動かしあえぐような感じに見える。この鳥も池の周辺の木陰やアシなど水草の茂みの中を好んで生活している。

#### ゴイサギ 留鳥

サギの仲間であるが止まっている時は長い首をちぢめていて、背が丸まって見える。その背は青みがかった灰色で白い冠羽が背にたれている。腹面は白く、くちばしは黒く、足が薄黄色。岸辺でじっとたたずみ餌の魚を待っていたり、池周辺の樹木の茂みの中で何羽かがじっとうずくまって休んでいるのを見かける。

#### カワウ 留鳥

全身が黒くて遠目にはカラスのようであるが、くちばしが長く先端がカギ型になり、個体によっては羽が白っぽいまだらがあるものもいる。首が長く水掻きが発達し潜水がとてもし上手で浮かんでいるときは体の多くが沈んで見える。鵜飼いで知られるように魚捕りがうまく大きな魚を捕らえて餌にする（鵜飼いの鵜はウミウだそうである）。以前豊中では珍しい鳥であったがここ数年のうちに多く見られるようになり、伊丹市の昆陽池ではこの鳥の糞により池中央の島の樹木が枯れるという被害が出るほどに増えている。

#### 【池について】

新宮池 約25000平方m 服部緑地公園内

緑地公園西南のはずれにあり南北に長く、西と南は道に面していて、池の水面が周囲よ

り数m低くなっている。北と東の部分はヤナギや公園の樹木が茂り静かな雰囲気、北西のアラカシなどが水面へ伸びた茂みの中にはバンやカルガモがよく入りこんでいる。池が大きいので双眼鏡が必要だが鳥の種類、数とも多く観察が楽しめる。

#### 山ヶ池 約40000平方m 服部緑地公園内

市内の池では最も大きく、水域周辺にアシやガマ、ハス、スイレンなどの水草が茂る部分も多く、環境が変化に富んでいる。水草の茂みの中にはバン、カルガモ、マガモや市内では稀なオオバンの発見などと種類も多く観察が楽しめる。この池は市内では唯一東西にかかる橋があり、その南部はコンクリート壁であるが北部とは違った鳥の様子が観察できる。

#### 箕輪池 約8200平方m 刀根山3丁目

空港近くの箕輪地域の水田へ水を送るのでこの名がある。地域の人の話では、この池に水鳥が来るようになったのは1987～8年の頃からで、当時2羽のアヒルがいたことが水鳥の誘因になったのではないかと思われる。池の周囲が人の手が加わった様子を感じさせず自然な感じなのと、付近の人達の接し方などが鳥を安心させるのであろうか。池は大きくはないのだが毎年ハシビロガモやキンクロハジロ、オナガガモなど多くの水鳥が飛来する。

#### うづわ池 約15000平方m 服部緑地公園内

緑地公園北東部にあって、北の乗馬センターに面した部分を除くと人の往来も少なくないが、10年も前からホシハジロが毎年飛来し、最近はおナガガモも見られるようになっている。北の水草の茂みの中や北東角のアラカシの茂みの下を注意するとコガモ、カルガモ、マガモの生息が見られるであろう。サギ類やカワセミもいるが双眼鏡が欲しい。

#### 中ノ池 約20000平方m 服部緑地公園内

公園内の南はずれにあって遊園地目当ての人は寄り付かず静かで、東西に広く南は全面樹木に被われ東から北にかけての面はアシを主とした水草が茂っていて環境的には変化のある池である。それだけに水鳥は種類や個体数も多く、森の鳥が見られることもあり、双眼鏡やバードスコープでの観察には楽しい池である。

#### 青池 約16100平方m 上野東3丁目

天竺川に注ぐ兎川による河岸段丘の高台の住宅街にあって民家と道路に囲まれているが、緑も多く形も変化に富む静かな池である。池にはアシやスイレンそれに珍しいマコモやサンショウモが見られ、時にはオニバスが生育することもある。以前からバンが生息しヒドリガモ、ホシハジロ、ハシビロガモが来ていたが、数年前から櫛の木池にいたと思われるヨシガモが飛来し、オカヨシガモも見られるようになった。

#### 梨谷下池 約8600平方m 少路2丁目

南北に長く北の面に沿った路にピロティー風に建つ派出所の隣の路上から数m下の池を観察するのだが、東側には水草、西は樹木が被いマガモやカルガモが見られるが多くはない。

#### 金坂池 約2100平方m 待兼山町

大阪大学の西方に中国自動車道に沿ってある。道路に沿う面の他は自然が豊かで、マガモやカルガモが浮かび、池面を被う樹木の茂みにはコサギやゴイサギが10羽、20羽と見られることがあったのだが、昨年東側に道を通す大きな工事が始まっており今後どのようなようになるのか注目するところである。

### 三ツ池 約28400平方m 東豊中3丁目

南西の一部をバス道がかすめているが、他の面は大きな屋敷の森や桜並木に囲まれ、東方は水草から草地へと続く部分もあり、大きく静かで変化に富んだ池である。双眼鏡などを使えば水鳥が種類に応じてそれぞれの環境を選んでいる様子が伺えるのだが、そのわりに個体数は多くない。

### 檜ノ木池 約16700平方m 新千里北町3丁目

自然が豊かな檜ノ木公園の北東部にあって池の周囲は背の高いネザサやウバメガシの生け垣に被われ、しかも水面が2~3m低いので観察には苦勞をする。西の方にはアシの茂みも広くあり、環境としては多様である。以前からヒドリガモやバンが見られたが、10年も前になろうかヨシガモの飛来が見られるようになり、今青池や服部緑地の池で見られるのはこれが広がっていったように思われる。

### 羽鷹池 上池約7300平方m 下池約4300平方m 少路1丁目

この二つの池の周辺はおよそ20ヘクタールにわたって1990年代まで田園風景が残されていた。区画整理の話があり「羽鷹池を守る会」が組織され、羽鷹池保存の強い要請活動が展開されたが、1995年頃から大々的な造成工事が始まり、2004年4月現在その工事も終わろうとしている。要請を受けて二つの池が保存されることになったが、開発前は合わせて28000平方mあったと言われる池が、先ず21000平方mあったという下池が早くに二分の一近くが埋め立てられ、上池も三分の二程に小さくなった。保存にあたって、特に下池は西から北へかけての部分の茂みを残したり、北部に入り江を配置するなど、水鳥の飛来を念頭に整備がなされた。今後周辺の住宅建設が進行するであろうが、最終的にその効果がどのように現れるか期待される場所である。

### 安場池 10500平方m 千里中央公園

公園の東端で吹田市に接している。回りが背の高いネザサやアカメガシワ、その他の樹木に被われ静かで他の池に比べると水の汚れがないように思われる。しかし以前から水鳥の飛来が少なく、カイツブリか2~3のカルガモやマガモが見られる程度であった。この池には1985年1月にオカヨシガモ2羽の飛来が確認されたが豊中で初めての記録であろう。

### 蛭池 約5400平方m 利根山4丁目

1995年の大震災で堤防が壊れ修理された。回りの多くがコンクリートで囲まれているが北の方の湾土のたまりにアシが茂り、バン、カイツブリが、また北東部のアラカシの茂みにはゴイサギやコサギが以前から見られていた。しかし全体に水鳥の飛来が少なく隣の箕輪池とは対照的であったが最近ハシビロガモやキンクロハジロの飛来も見られることも多くなったが、釣り人が訪れるので安定しないようである。

### 奥池 約1500平方m 緑丘1丁目

住宅地の中にあり周囲と数mの段差があり、小さな池で西側の面を除いて殆どが樹木に被われていることもあって、そこに池があることに気づかずに通り過ぎそうである。観察に訪れる人もなく静かで、カイツブリやマガモ、カルガモが好むと思われる池であるが、今回はハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロの飛来が確認され、今後が楽しみである。

## 2003年度 陸鳥調査

水鳥と水辺の鳥の調査を目的としていたが、陸鳥についてもつとめて記録するようにした。尚、一部に目視による確認が行われたが、カウントしていないものや未調査のものもあった。報告があったものについての結果は下記のとおりである。

種名	池													河川										合計						
	榎ノ木池	安場池	長谷池	奥池	梨谷下池	羽鷹上池	羽鷹下池	うずわ池	新宮池	山ヶ池	向丘・桜町	若竹池	赤坂上池	個体数	頻度数	2000年個体数	猪名川	千里川	天竺川	高川	神崎川	南部排水路	中央幹線水路	旧猪名川	個体数	頻度数	2000年個体数	個体数	頻度数	2000年個体数
1 スズメ	29	93		1		1	1				39		164	6	3	25	○	197	○	50		1	43	316	5	20	480	11	23	
2 ヒヨドリ	14	24	9	2	6	1					2		58	7	34	7	○	69	5	11			11	103	5	24	161	12	58	
3 ムクドリ	40	6							2				48	3	29	6	○	26		32		9	3	76	5	29	124	8	58	
4 ツグミ	23	13	3	1									40	4			5	26	1			1	1	34	5		74		9	
5 ハボトガラス	1	9	3	1	1		3				1		19	7	2		○	29	5	13			2	49	4	9	68	11	11	
6 イカル		50											50	1				8						8	1		58		2	
7 キジバト	4	10	8						2		5	2	1	32	7	9		○	19		1			4	24	3	12	56	10	21
8 ハブトガラス		15	3	1	1	1							21	5	20	5		4					4	13	3		34	8	20	
9 カワラヒワ		8							7				15	2				7					1	8	2		23		4	
10 ジョウビタキ		2			2			2					6	3				5	1					6	2	2	12	5	2	
11 メジロ		2											2	1				5						2	7	2		9		3
12 アオジ	6	2											8	2													8		2	
13 モズ							1			1			2	2	1	1	1					1		3	3		5	5	1	
14 コゲラ																		5						5	1		5		1	
15 ウグイス		1			1								2	2	2			2						2	1		4	3	2	
16 エナガ										2			2	1													2		1	
17 ジョウビタキ															1		1		1					2	2	2	2	2	2	3
18 シメ	1												1	1													1		1	
19 シロハラ		1											1	1													1		1	
20 ルリビタキ		1											1	1	1												1	1	1	
21 ビンズイ		1											1	1													1		1	
22 ホオジロ															3															3
23 ハイタカ															1															1
個体数	118	238	26	6	11	3	4	3	11	2	48	2	1473	-	106	44	7402	13	107	0	17	66	656	-	98	1129	-	204		
種類数	8	16	5	5	5	3	2	2	3	1	5	1	19	-	12	5	8	13	6	5	0	6	7	15	-	7	21	-	13	

※ ○印は目視による確認のみでカウントしていない

陸鳥調査（合計表）

	種名	池		河川		合計	
		頻度数	個体数	頻度数	個体数	頻度数	個体数
1	スズメ	6	164	5	316	11	480
2	ヒヨドリ	7	58	5	103	12	161
3	ムクドリ	3	48	5	76	8	124
4	ツグミ	4	40	5	34	9	74
5	ハシボソガラス	7	19	4	49	11	68
6	イカル	1	50	1	8	2	58
7	キジバト	7	32	3	24	10	56
8	ハシブトガラス	5	21	3	13	8	34
9	カワラヒワ	2	15	2	8	4	23
10	シジュウカラ	3	6	2	6	5	12
11	メジロ	1	2	2	7	3	9
12	アオジ	2	8			2	8
13	モズ	2	2	3	3	5	5
14	コゲラ			1	5	1	5
15	ウグイス	2	2	1	2	3	4
16	エナガ	1	2			1	2
17	ジョウビタキ			2	2	2	2
18	シメ	1	1			1	1
19	シロハラ	1	1			1	1
20	ルリビタキ	1	1			1	1
21	ビンズイ	1	1			1	1
合計	種類数	19		15		21	
	個体数		473		656		1129

## 協力者感想と特記事項

### 1班（音羽悦子、熊代直生、吉水由紀）

今回初めてカモ調査に参加させて頂き、私も豊中市民でありながら、市内にこれ程数多く池や川があることを初めて知ることができました。また、市内で観察できる水鳥の種類、数、2000年度の調査以降の鳥の変化等、興味がありますので、今回の調査結果が楽しみです。（吉水由紀）

- ・櫛の木池…池内のゴミが目立った。
- ・古池）昔はオシドリが来た貴重な池であったが、池の回りをフェンスで囲んでからは来なくなっただけで、フェンスが邪魔でドングリを食べに上がって来れなくなったのが原因の一つかと思われる。今は釣り人が入っている。
- ・羽鷹上池…上池、下池の周囲の開発が激しく進んでいるので、今後池がどのようになるのか心配である。

### 2班（岡 恒夫、吉見清之）

- ・青池…東側の護岸工事のためか、例年より少ないようだ。
- ・東泉丘1・3…耕作地に大小4個の池があったが水鳥は0、他の鳥も姿を見かけなかった。

### 3班（入江スナエ、河野猪太夫、佐藤宗一、里田潤子、辻由紀子、中川順子、松崎修）

- ・山ヶ池…氷が張っている。

### 4班（大久保美秀、佐伯 雄、奈倉 武）

- ・上赤坂池…水鳥は見ず。
- ・下赤坂池…池の水は全部抜かれている。
- ・乳母谷池…釣り人多く、常連のキンクロハジロ見ず。バンも発見できなかった。阪大の建物が水際まで進出して環境悪化を招いている。

### 5班（上田峯子、易 信子、岸田興次、佐々木幸治、須藤 操）

- ・梶池…2000年調査時から池の面積がおよそ3分の1になり、種数も固体数も減った。
- ・千里川…ゴミの散乱について。猪名川と千里川が合流する地点手前、約100mにわたって車による不法投棄と考えられる家庭ゴミが散乱している。ゴミの撤去と今後の対策として車の進入を防止する対策が必要。堤防であるので可能な地点と思われる。（上田峯子）

### 6班（木村照雄、中川 均）

- ・高川…川は凍っている。
- ・神崎川…阪急電車橋の上の電線にユリカモメ135羽いる。

### 7班（御旅屋瑛一、御旅屋晴子、杉田福松、杉田三枝子、山口 寿）

分担分の調査を終えて、こんな川の状態にもかかわらず、ハクセキレイは多くのところで生息していることがわかった。兎川上流ではキセキレイやセグロセキレイも確認できた。むしろ、川幅が広く水量が多いところ（緑地公園に近づくにつれて）で水鳥が見られない。近くにもっと状況のよい大きな池等があるためと思われる。また、護岸に大きな木があると、その付近には水鳥や野鳥が多く見られる傾向があ

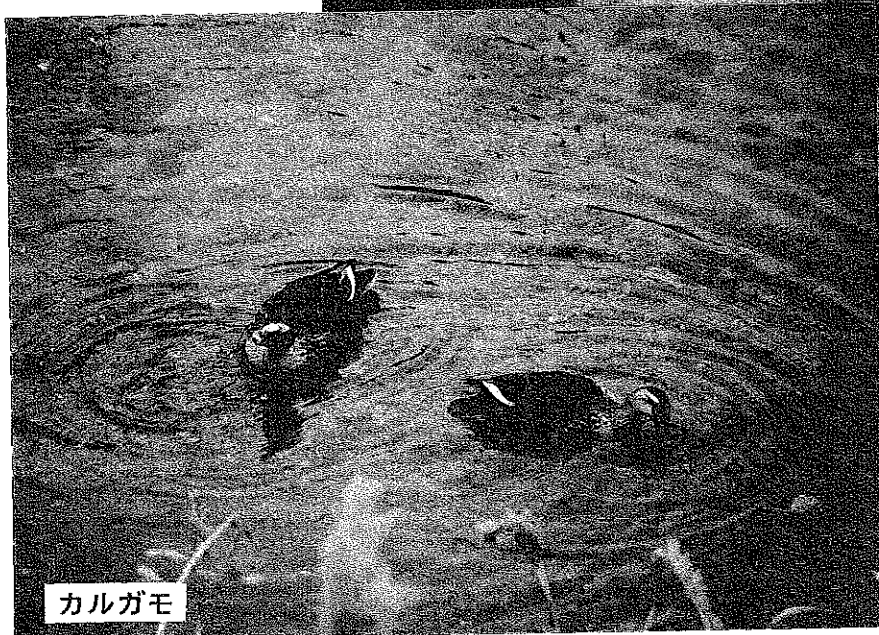
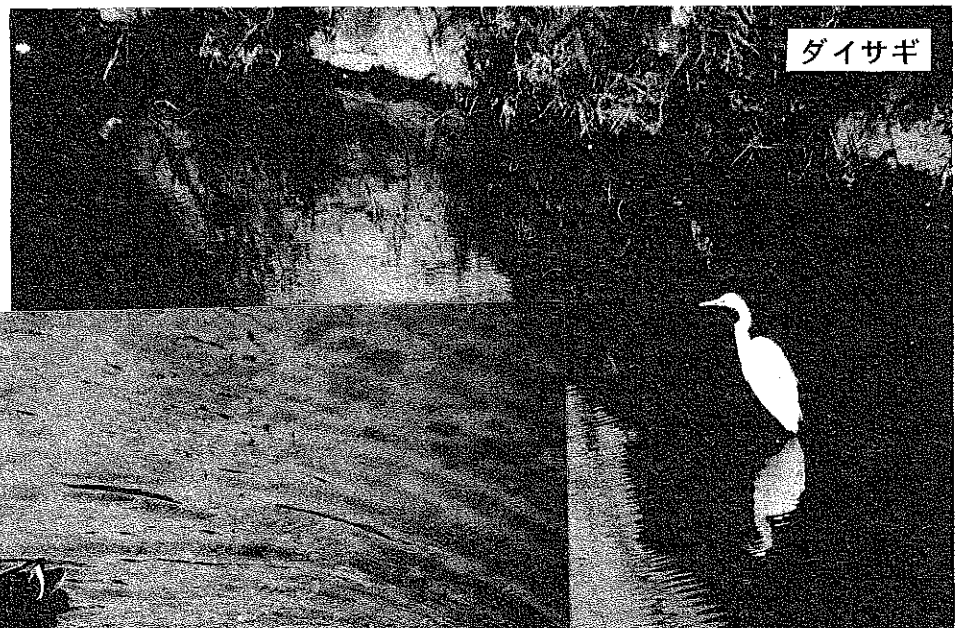
る。住宅地の中では三面張りは止むを得ないかもしれないが、せめて護岸には樹木を植えるなどすれば、カモ類はともかく水辺の鳥や身近な野鳥は多く生息する（遊びにくる）可能性は高くなるように思われる。（御旅屋瑛一）

- ・新池から上新田3にかけて…すべて3面コンクリートで、一部は川の形をしていない。側溝のようである。一部凍結箇所あり。
- ・上新田3から兎川合流地点にかけて…やや川幅が広がる川に沿った公園の木にカワラヒワ、イカルがいた。地面に降りて採食していた。
- ・熊野田小から極楽橋にかけて…川底がゴミなどで非常に汚い。

8班（飯島 昌、三宅史郎）

- ・新三国橋から神洲橋にかけて…ユリカモメの足にリングのあるのを1羽発見する。記号は読み取れず。
- ・神洲橋から大豊橋にかけて…たくさんのユリカモメの中にカモメをスコープで確認する。

9班（桑島いつ枝、坂井佳寿美、佐藤藤子、真野隆夫、山田光世）



千里川にて

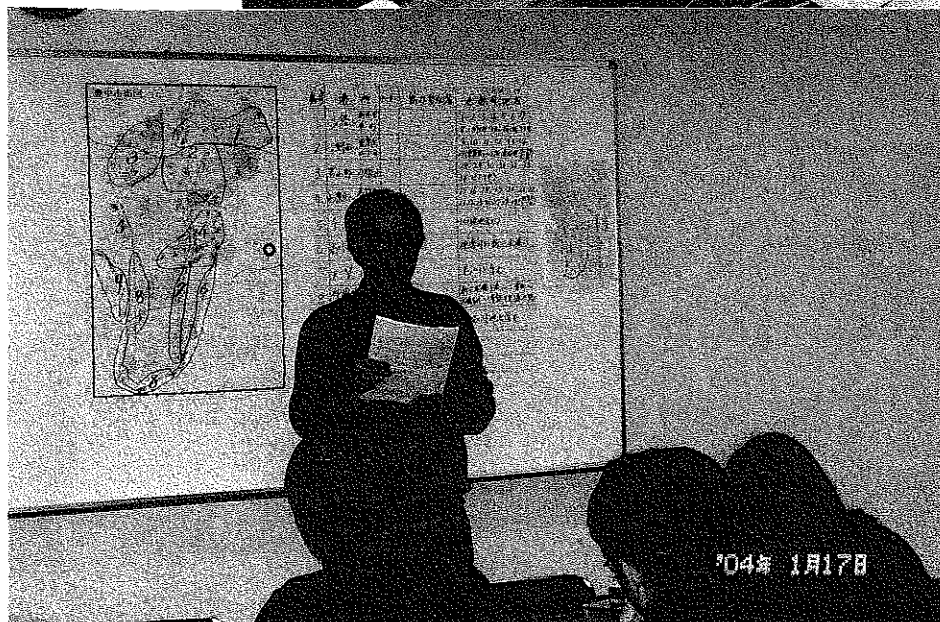
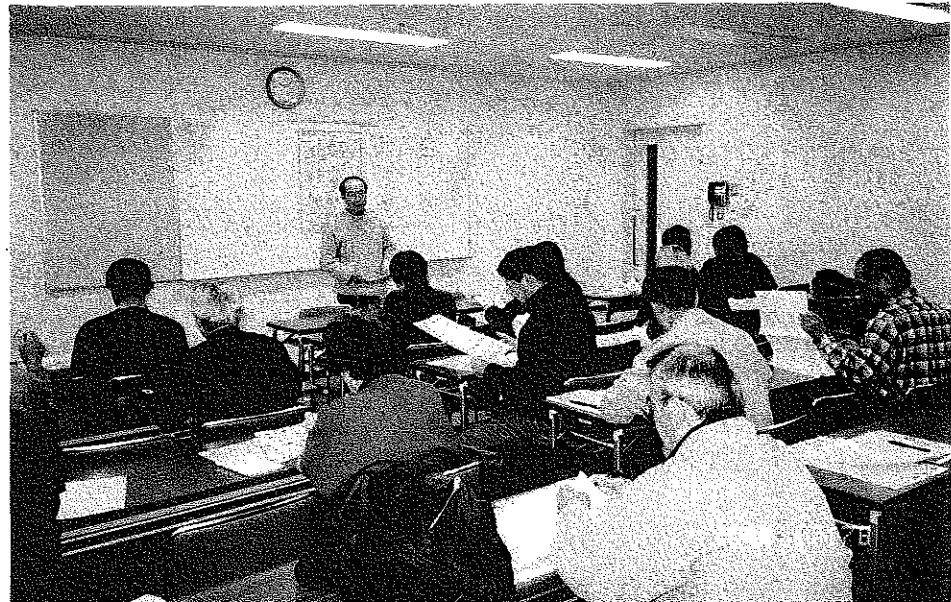


## 2003年度「水鳥一斉調査」協力者

飯島 昌、入江スナエ、上田峯子、易 信子、大久保美秀、岡 恒夫、御旅屋瑛一  
御旅屋晴子、音羽悦子、岸田興次、木村照雄、熊代直生、桑島いつ枝、河野猪太夫  
佐々木忠弘、佐々木幸治、坂井佳寿美、齊藤 明、佐伯 雄、佐藤宗一、佐藤藤子、  
里田潤子、杉田福松、杉田三枝子、須藤 操、辻 由紀子、中川 均、中川順子、  
奈倉 武、坊中啓三、松崎 修、真野隆夫、三宅史郎、山口 寿、山田光世、  
吉水由紀、吉見清之

計 37名

調査説明会 (2004. 1. 17 於螢池公民館)



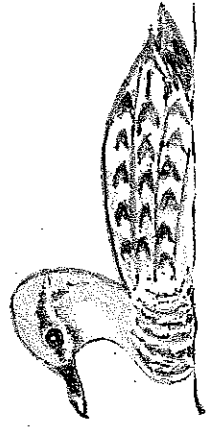
冬の鳥たち  
モズ 20cm  
カイツブリ  
NPO法人 とよなが市民環境会議  
アジエンダ21 自然部会

① マガモ



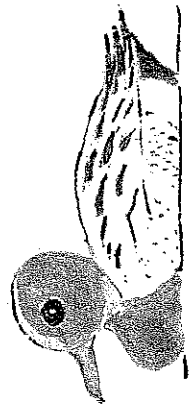
59cm

② カルガモ



60.5cm

③ ヒドリガモ



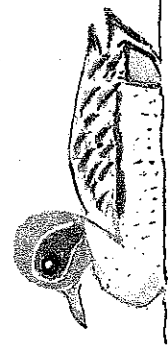
48.5cm

④ オナガガモ



♂ 75cm ♀ 53cm

⑤ コガモ



37.5cm

⑥ ハシビロガモ



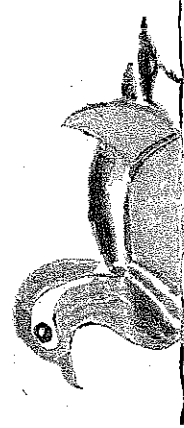
50cm

⑦ オカヨシガモ



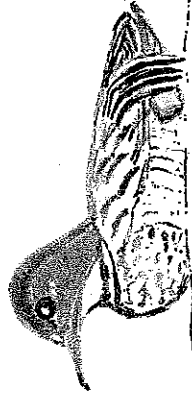
50cm

⑧ オシドリ



45cm

⑨ ヨシガモ



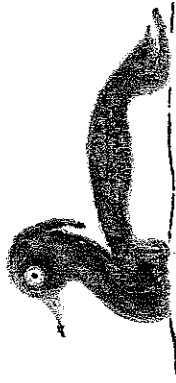
48cm

⑩ ホシハシロ



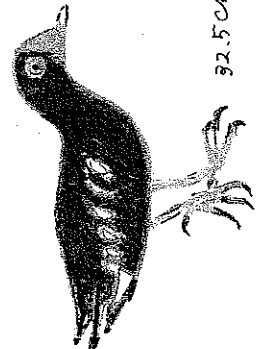
45cm

⑪ キンクロハジロ



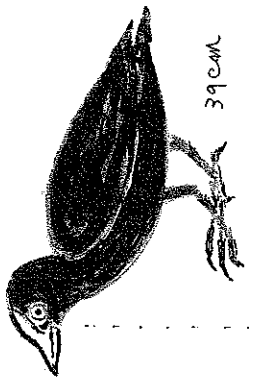
40cm

⑫ バン



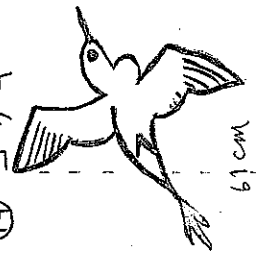
32.5cm

⑬ オオバン



39cm

⑭ コサギ



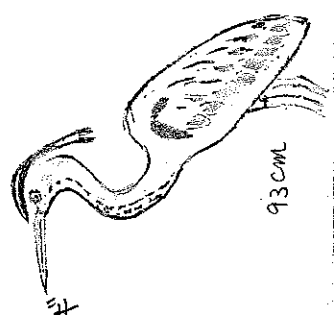
61cm

⑮ ダイサギ



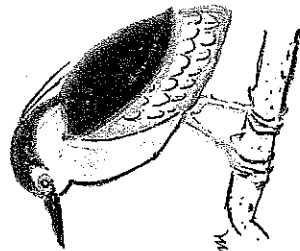
90cm

⑯ アオサギ



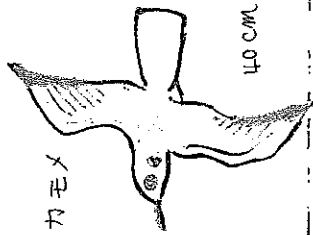
93cm

①⑦ ゴイサギ



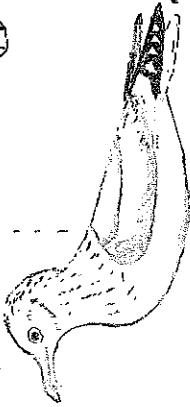
57.5 CM

①⑧ エリカモメ



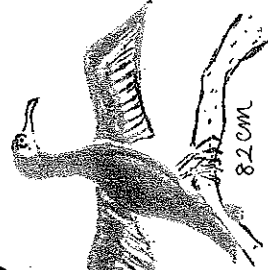
40 CM

セグロカモメ



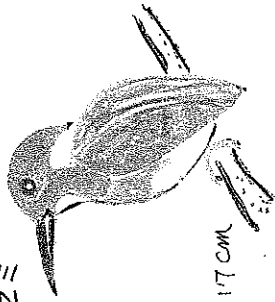
60 CM

①⑨ カワウ



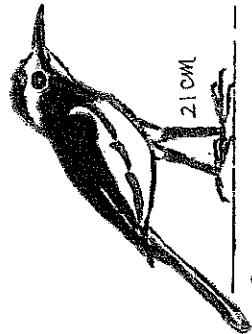
82 CM

②⑩ カワセミ



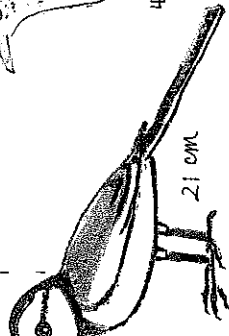
17 CM

②① セグロセキレイ



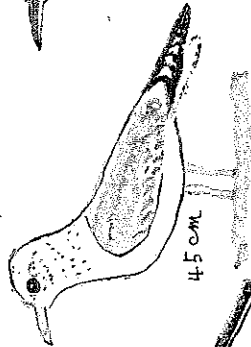
21 CM

②② ハクセキレイ



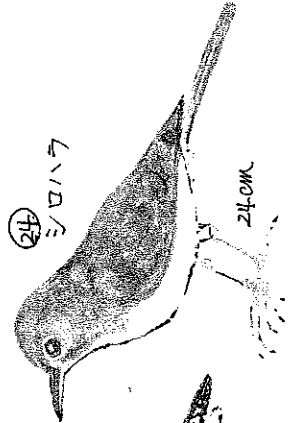
21 CM

②③ カモメ



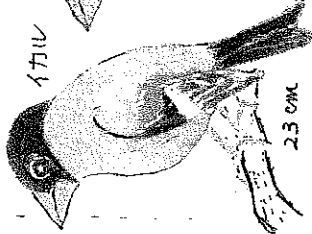
45 CM

②④ シロハラ



24 CM

②⑤ イカル



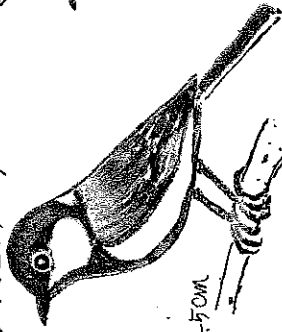
23 CM

②⑥ シメ



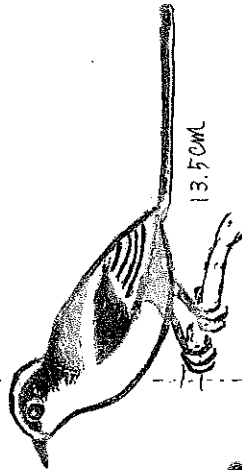
18 CM

②⑦ シジュウカラ



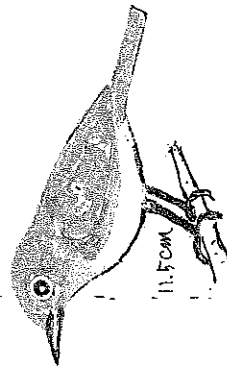
14.5 CM

②⑧ エイガ



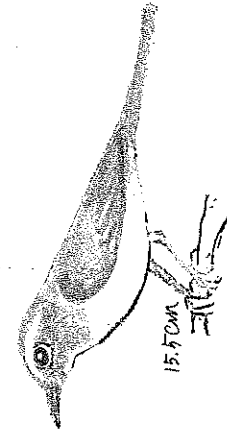
13.5 CM

②⑨ メジロ



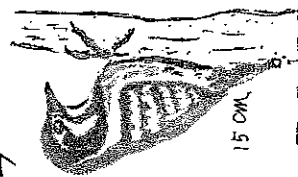
11.5 CM

②⑩ ウグイス



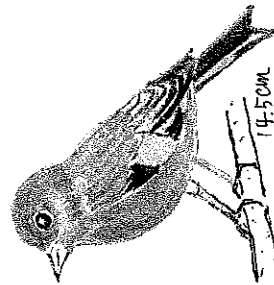
15.5 CM

③① コガラ



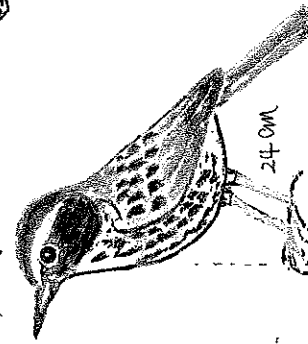
15 CM

③② カワラヒフ



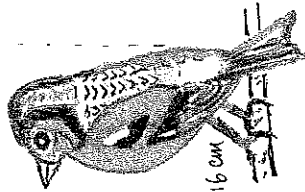
14.5 CM

③③ ヲトリ



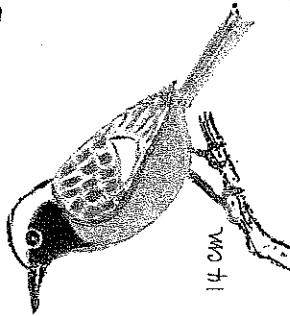
24 CM

③④ アトリ



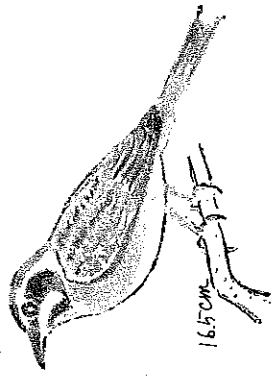
16 CM

③⑤ ジョウボタキ



14 CM

③⑥ ホオジロ

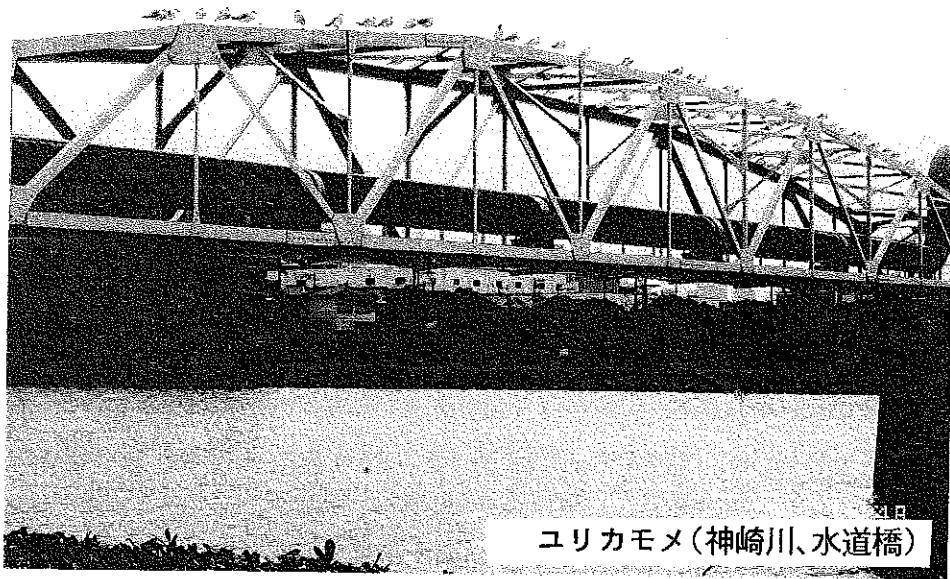


16.5 CM

# 豊中市内の池及び河川の水鳥生息調査記録紙

とよなか市民環境会議アジェンダ21自然部会

調査員名					
調査池・河川					
調査日時		2004年1月24日		時 分～ 時 分、天気	
水鳥名	個体数	合計	水鳥名	個体数	合計
1 カイツブリ			16 ハシビロガモ		
2 カンムリカイツブリ			17 ホシハジロ		
3 カワウ			18 キンクロハジロ		
4 ゴイサギ			19 ミコアイサ		
5 ダイサギ			20 バン		
6 コサギ			21 オオバン		
7 アオサギ			22 セグロカモメ		
8 オシドリ			23 ユリカモメ		
9 マガモ			24 カワセミ		
10 カルガモ			25 キセキレイ		
11 コガモ			26 ハクセキレイ		
12 ヨシガモ			27 セグロセキレイ		
13 オカヨシガモ			28		
14 ヒドリガモ			29		
15 オナガガモ			30		
その他 特記事項					



ユリカモメ(神崎川、水道橋)



キンクロハジロ(箕輪池)



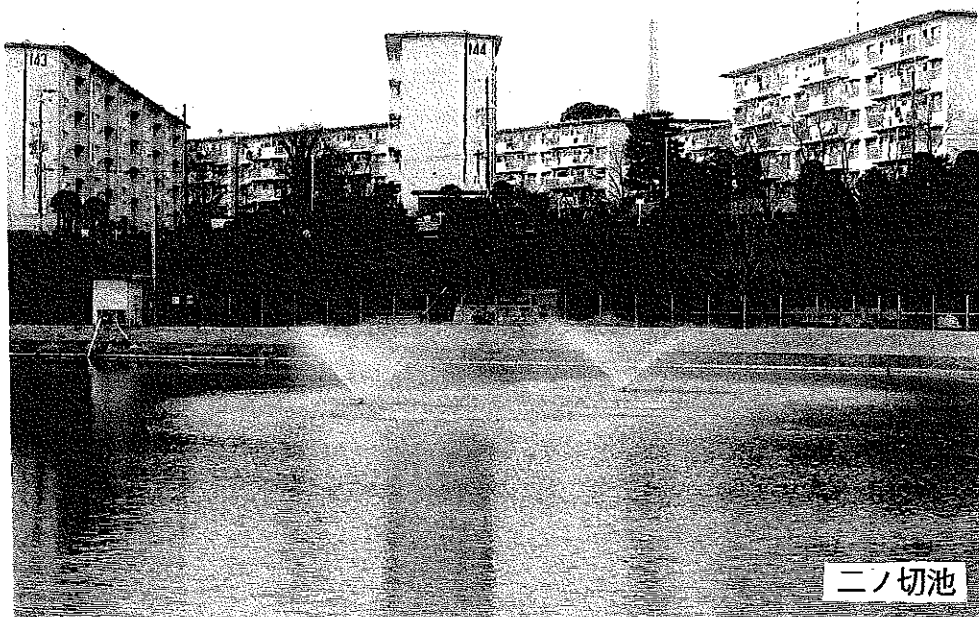
採餌するハシビロガモ、ユリカモメ(箕輪池)

## おわりに

日々の暮らしの中でスズメやカラスしか映らなかった目が「あれ、変わった鳥がいる」とカルガモを知り、コサギを知る。ちょっとしたきっかけが、私達のすぐそばに様々な野鳥が飛び交う世界があることを教えてくれる。野鳥観察にはそんな醍醐味がある。それぞれの野鳥の羽の美しさ、特徴的な鳴き声、子育ての様子、飛び方の違いなど、見ていて飽きない。とりわけ水鳥は体も大きく、水面での動きがゆったりとしているので観察しやすく、調査していても楽しい。

今回の一斉調査では、2000年に比べて川・池ともに固体数も頻度数も増えていることが分かった。この4年間で豊中市内の溜め池面積は減少しており、決して市内の水辺環境がよくなったわけではない。残された水辺に、市域外から流入していることも考えられる。また、マガモ、カワウ、セグロセキレイ、キセキレイなど固体数が減少している種もあり、これらの変化も、調査を積み重ねることで今後の行く末を見守っていきたい。

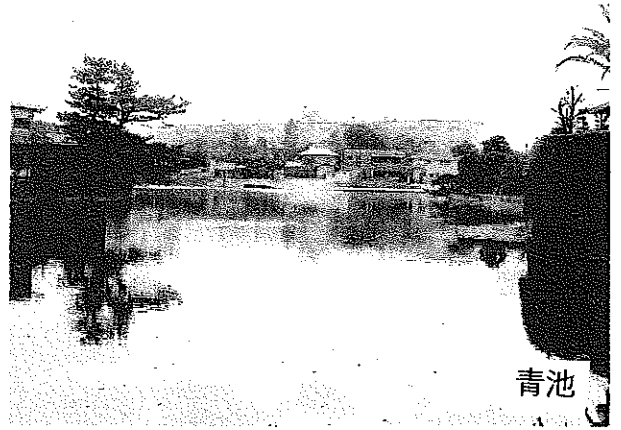
このような調査の積み重ねがあるからこそ、野鳥の生息域を保全する実効的な提言も可能になってくる。足元の自然を知り、その豊かさを実感しながら記録を残す作業が、豊中の今と未来をつなぐ礎（いしずえ）になると信じている。



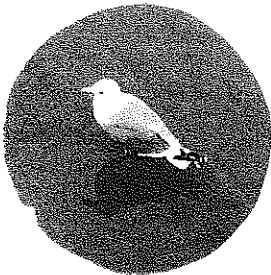




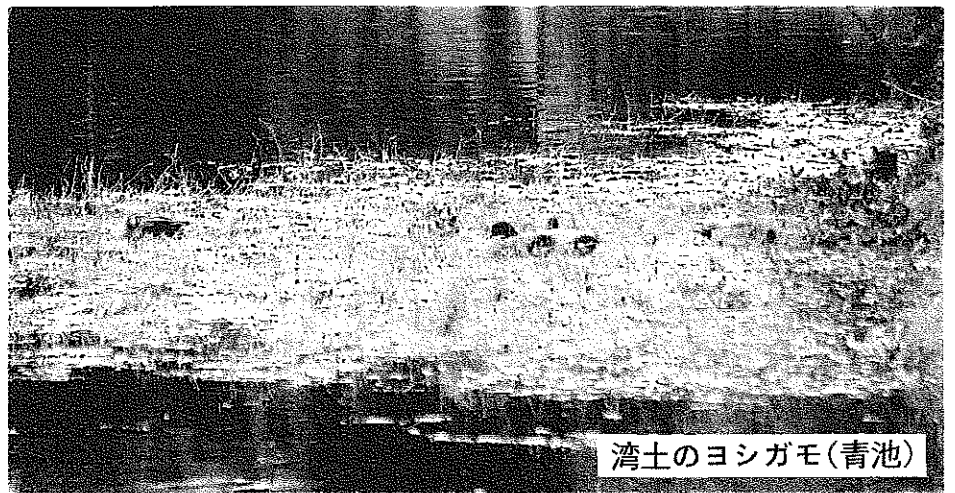
三ツ池



青池



ユリカモメ  
(千里川)



湾土のヨシガモ(青池)



古池



アオサギ  
(千里川)

